独立行政法人国立高等専門学校機構

明石工業高等専門学校
第１７回有識者懇談会

報　　告　　書

開催日：令和７年４月２２日（火）
場　所：明石工業高等専門学校

明石工業高等専門学校第１７回有識者懇談会

＜次第＞

日時：令和７年４月２２日（火）１４時００分～１５時３０分

場所：明石工業高等専門学校　本館３階　大会議室

次第：１３時３０分～（３０分）	施設見学（委員自由参加）
１４時００分～（　５分）	開　会
	校長挨拶
	出席者紹介
１４時０５分～（３０分）	明石高専の学校説明等
１４時３５分～（４０分）	意見交換・質疑応答
１５時１５分～（１０分）	本校への提言・意見等(各委員から)
１５時２５分～（　５分）	校長謝辞
１５時３０分	閉　会

明石高専の学校説明

＜学校説明資料＞

（１）教務関係について（担当：副校長・教務主事）　・・・・・・ 資料１

（２）学生関係について（担当：副校長・学生主事）　・・・・・・ 資料２

（３）特色のある教育の取組について

・明石高専のグローバル事業について
（担当：グローバルエデュケーションセンター長）　・・・・ 資料３

・地域連携について
（担当：テクノセンター長）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料４

有識者名簿（敬称略）

氏名	所属・役職
たまき　ひさし 玉置　久	神戸大学　理事・副学長（教育・グローバル）
くぼい　じゅんじ 久保井　順二	明石市政策局長
やまもと　なおき 山本　直樹	明石商工会議所　専務理事
えむら　おさむ 江村　治	三菱重工業株式会社　神戸造船所　所長代理 高砂製作所　所長代理
やました　かつゆき 山下　勝幸	明石市立大久保中学校校長
おかだ　かつのぶ 岡田　雄伸	神戸新聞社明石総局長
かわなか　たかお 川中　岳穂	明石工業高等専門学校後援会　会長

明石高専出席者名簿

氏名	所属・職
土居　信数	校長
梶村　好宏	副校長：教務主事
穐本　浩美	副校長：学生主事／情報メディアセンター長
三好　崇夫	副校長：寮務主事
松塚　直樹	副校長：研究主事／専攻科長
関森　大介	機械工学科長
武田　宇浦	都市システム工学科長／男女共同参画推進室長
工藤　和美	建築学科長
丹下　暖子	学生相談室長
本塚　智貴	テクノセンター長
水野　裕貴	グローバルエデュケーションセンター長
前原　義久	事務部長
宮脇　浩和	総務課長
河邊　隆志	学生課長
山口　貴子	総務課長補佐（総務・人事）
西本　隆哉	総務課長補佐（会計）
柴原　美佳	総務課係長（総務担当）

議事要旨

（校長　挨拶）
　本日は、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。
　高専は最近社会から注目されている。理由として、一つは理系人材が注目されていること、もう一つは高専の卒業生が社会で活躍していることにある。
　一方で、高専全体の志願者は、前年度比約８００名減、志願者倍率０．１ポイント減となっており、少子化率よりも低い率で減少傾向にある。そのため、学校としての特長をアピールしていく必要があり、本校ではオンキャンパスのグローバル化に力をいれており、EMI（English as a Medium of Instruction）Teachers を各学科１名以上、全体で１割以上配置し、１年生から英語での授業を取り入れ、海外への留学・受入れを促進、多様な価値観を持った人と混ざる、そのような教育方針である。
　また、本校の使命は、教育・研究・地域連携となっている。本校は北海道、沖縄など全国から入学者があるが、基盤は地元であるため、地域についてよく知り、将来的に地域に根差す人材を育成する取り組みを実施しているところである。 本日はよろしくお願いいたします。

【意見交換・質疑応答】
（久保井委員）
　明石市と高専の関わりには歴史があると思う。印象に残っているのが、市で民間提案制度を立ちあげた際、高専の研究室から、大蔵海岸の白砂が流れてしまい、定期的補充していることについて、白砂の減少をドローンボートにソナーを付け調査する提案をいただいたことであり、このように市の課題にかかわっていただいている。また、ため池の水害の一時貯水池に関する課題など、理系の知見が大事と思っており、市では理系人材の活用を期待、求めているので、地域で活躍したい学生がおられたら、明石市に声をかけていただき、公務員がどのような仕事をしているか実際に感じていただき、紹介する機会があればお願いしたい。

（玉置座長）
　具体的な課題をとらえて解決することは、学生にとっても貴重な経験となると思う。

（山本委員）
　建築学科の女子志願者が減った理由は何か。
　企業は理系人材の取り合いになっている。明石高専の就職の状況は変わっているか。
　グローバル化と言われながら自分の好きな世界にだけ没頭して、違う意見の方とは

あまり触れたがらないという子が増えてきている傾向にあると企業から聞いているが、このあたりについてお聞かせ願いたい。

（梶村教務主事）
　全体の志願者の数は変わっていないが、どの学科に志願するかという部分が変わっていて、都市システム工学科の女子志願者あるいは電気情報工学科の女子志願者が増えているという傾向が見られる。

（工藤建築学科長）
　建築学科の女子志願者が減った理由は、憶測だが、令和６年度に増えすぎた揺り戻しが出たのではないかと予想している。

（江村委員）
　弊社には明石高専から毎年たくさん就職されており、研究部門や製造部門等色々な分野で活躍してくれている。弊社でも理系人材をどうやって確保していくかが課題である。
　明石高専のどういう所に関心を持ち、応募されているのか動機が知りたい。

（梶村教務主事）
　一番大きな動機は、専門学科で学びたいことが学べること、また小中学生を対象に行っている、ものづくり系の公開講座は定員の１０倍応募があり、ものを作るということに興味を示している。
　ものづくりを学べるという所も志願理由の一つであると考えられる。

（江村委員）
　公開講座等の体験が応募に結びついているということは分かった。
　質問ではないが、企業側からすると高専卒の方は大学卒の方に比べると、英語力が劣っているという印象がある。明石高専の場合はグローバル化に力を入れているので企業側としてもありがたい。
　創造工房を見学したが、３D プリンターの使用等の新しい取組は良いと思う。

（土居校長）
　英語力に関して、国立５１高専の TOEIC 平均スコアは約４００に対し、明石高専の平均スコアは約６００あるので、英語コンプレックスは全くない。

（山下委員）
　オンキャンパスのグローバル化や長期留学制度を利用した後、語学力は当然上がると思うが、それ以外のところで変容が見られたところがあれば教えていただきたい。
　出前講座について、小学校でも、例えばものづくりについて得意な教員ばかりでないので、学生がやってきて、これが得意だ、こんなことができるよ、というものがあれば教えていただきたい。

（水野グローバルエデュケーションセンター長）
　学生にもよるが、帰国後すぐに、また次のプログラム等、留学だけでなく様々な課外活動に参加する学生がいることが印象的。また、雰囲気が明るくなった学生もおり、様々なことに意欲的に取り組んでいる印象である。

（本塚テクノセンター長）
　出前講座について、今年度から再開するに当たり、中学校様とどのような形で授業を進めていくことが良いのか、ものづくりではある程度人数を絞って丁寧に指導していくことも大事であるので、どうすれば怪我無くものづくりの楽しさを学んでいただけるかを模索するのが今年のミッションである。
　私は明石高専防災団の顧問であり、かつ防災教育を担当しており、独自のゲームを利用したプログラムを小学校でも行った実績はある。そのような学内でのノウハウを共有しながら、小学校様でも負担無く、我々としても実現可能なところを検討していくので、色々とご助言をいただきたい。

（岡田委員）
　グローバル化に対する危機感として、優秀な人材が海外へ流出することの兆候をつかまれているか。

（土居校長）
　肌感覚としてつかんでいないが、逆にそういった学生がいる方が元気があっていい。とにかく囲うようなことはしない。学生が進むところは自分で決めるという方針。こちらで誘導するようなことはしない。

（川中委員）
　自分の子どもの事になるが、当時中学校の先生に夏休みの自由研究をしっかり指導していただいたことがあり、理系の道に進みたいと思うようになった。入学してからの学生生活は、非常に充実していた。学習面では厳しかったが、鍛えられたと思う。様々なコンテスト等にも出場し賞を取ったり、外部と触れ合う機会が多く色々な経験ができ楽しんでいた。優秀な学生が多いので、その中で過ごすことは良い刺激になったと思う。良い教育をしてくれているのだから、もっと国からの援助があれば良いと思う。

（玉置座長）
　2018 年の海外からの留学生の受入数が極端に増加しているが、どのような事情があるのか。

（水野グローバルエデュケーションセンター長）
　当該年は、半日や一日訪問の短期の留学生が多かった。

（玉置座長）
　EMI 教員の英語による専門科目の授業については、バイリンガルではなく英語だけで実施されているのか。その場合、授業内容のレベルを落とす必要はないのか。

（土居校長）
　英語だけで実施している。ただし、専攻科の学生が TA としてサポートしているため、授業内容のレベルは落としていない。開始して１年なので、今後、その効果を評価していくことになる。 その他、全国の 51 高専をつないで、各学校が数教科ずつ英語による授業を実施している。 本校が中核となって、 カリキュラムを設計して、ほぼ全ての授業を英語で受けられるようにすることを計画している。

【本校への提言・意見等】
(久保井委員)
「排除から配慮へ」の言葉は、外に出されないほうがよいのではないか。

（山本委員）
　１点だけ逆にお聞きしたい。企業に入ってくる人の気質が変わりつつあるのを感じている。ケアをどうしたらよいか悩んでいる企業が多い。学生のケアの部分で昔と比べて気を付けてやっていることはあるか。

（穐本学生主事）
　気質の違いでいうと、打たれ弱い学生が増えていると感じる。10 年前に比べると組織的に細かなケアをするようになっている。それが就職する時にプラスに働いているか、もしかしたらマイナスなっている部分もあるかもしれない。

（山本委員）
　同じような意識を企業も持っている。

（江村委員）
　改めて、明石高専の良さが分かり、良い機会をもらった。
グローバル化対応や、各所への PR 対応について、このまま継続してほしい。
　これから１０年２０年と、ものの作り方等が変化していくので最新の技術を取り入れた教育をしてもらいたい。

（岡田委員）
　特にないのですが、これからも鋭意取材対応しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（川中委員）
　先ほど打たれ弱くなっているという意見が出たが、高専の方はまだまだ強い、底力があり、体育会系の学びがあるという印象を持っている。そんな教育を続けてほしい。

（玉置座長）
　高専から大学に編入してくる学生は、技術系のスキルに長けており、非常に器用な学生が多いと感じる。しかし、教養を中心に学んできた一般の大学生とは気質や学びの背景に違いが見られる。大学における教養教育は、「教養をどのように活かすか」を考える場であり、それが大学の重要な役割の一つである。そうした中で、高専からの大学編入というキャリアパスを見据えた教育の在り方を、ぜひ検討していただきたい。
　また、「グローバル」というのは単に言語を学ぶことにとどまらず、幅広い教養を身につけることで、専門分野での強みがより際立ち、実社会での活躍の幅も広がるのではないかと考えている。

【校長謝辞】
　本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。いくつかこの場でお答えしたいと思います。
　まず、排除という表現が適切ではないという事に対し、高専は一昔前に原級留置が１割を超えていたため、自虐的な意味を込め教育方針として「排除から配慮へ」と掲げていたが、検討していきたいと思う。
　キャリアパスについて、高専が社会から注目されているのに、なぜ入学志願者が増えないのかという問題は、キャリアパスが見えないことにある。明石高専は予備校のような非常に浅いキャリアパスを示していた。今日の御意見を活かしてキャリアパスを示す、またオンキャンパスのグローバル化により、どのようなメリットがあるかを学生に伝えていきたい。また、地域に慕われる、地域に根付いた学校にしていきたい。本日はありがとうございました。

以上

独立行政法人国立高等専門学校機構

明石工業高等専門学校
第１７回有識者懇談会報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Akashi College

〒674-8501　兵庫県明石市魚住町西岡679-3
電話078-946-6017　FAX078-946-6028
https://www.akashi.ac.jp/